

資料Ⅲ 学習サポートボランティアからの意見聴取結果

地域連携アクティブスクールでは、近隣の大学（東京情報大学、清和大学）との連携により、将来教職を目指す学生を「学習サポートボランティア」として両校に派遣していただき、学び直しなどの授業において、担当教員の補助として生徒の質問に対応するなど、きめ細かい学習指導を実施しています。

今回、この制度の実施状況等について検証するため、ボランティアとして参加した大学生から意見聴取を実施しました。（主な意見は以下のとおり）

1 学習サポートボランティアに参加して良かったこと

- 学校現場に入ることができて、生徒の実態や授業の進め方を学ぶことができた。
- 先生方が生徒にどのような指導・接し方をしているかを間近で見ることができて、とても参考になった。
- 学生時代には分からなかった先生方の動きなどを知ることができて良かった。
- 教育環境を肌で感じることができた。
- 生徒に教えるという貴重な経験ができた。
- 生徒との関わりを通して、生徒との接し方が少しだけ分かった。
- 実際に学校現場に入り、授業に参加して、現在の高等学校の雰囲気味わうことができた。
- 参加する前は人前で発表することが苦手だったが、参加したことにより人前で発表することが増え、苦手を克服することができた。
- 教育者を目指す立場として心構えができた。先生と呼ばれてとれもうれしく、頑張ろうと思った。
- 大人と子どもの間という難しい年代の生徒たちと触れ合うことができて、本当に貴重な良い経験を積むことができた。

2 学習サポートボランティアに参加してやりづらかったことや困ったこと

- 授業の範囲を知らされていなかったので、教えるまでに時間がかかってしまった。
- 生徒とのコミュニケーションをとるのが難しく、慣れるまで時間がかかった。
- 大学や高校の先生から「積極的にたくさんの生徒と話し、コミュニケーションをとってください」と言われたが、何もない状態からいきなり生徒に話しかけるということは難しかった。
- 授業に参加した際に、生徒一人一人の顔と名前を一致させるのが難しかった。
- ただ「サポートしてくれ」というだけでは何をして良いのか分からず苦勞した。
- 授業や学習支援の流れが分からず、どうして良いか分からなかった。
- 主教員が授業指導、副教員が生徒指導をしていたので、ボランティアのやることのない授業があった。
- 授業によっては、学習サポートボランティアを必要としない授業展開をしていることがあった。
- 教科担当の教員とのコミュニケーション不足があり、答え合わせのプリント配付などで連携がとれていない部分があった。

3 学習サポートボランティアの活動について、改善したら良いと思うこと

- 初めて参加するボランティアには、どのように生徒と接して良いか分からないので、あらかじめ「どのようにやってほしい」と言ってもらいたい。
- 自主的に動かなければいけないのは分かるが、初めての授業で何をして良いのか分からないときは指示していただきたい。
- 先生との事前打ち合わせがあると良い。
- 「生徒のサポートをしてほしい」というだけでは、どうして良いか分からないので、担当の先生から仕事や今の時間にやってほしいことなどを指示してもらい、生徒たちと接する時間を増やしてほしい。
- 配属される授業の内容（せめて教科書のページ）をあらかじめ教えてもらえると予習ができるので検討してもらいたい。
- 授業で使うプリントを事前にもらいたい。
- 出席をとらせてもらうことにより、生徒の顔と名前が一致できたのではないかと思う。
- 生徒とのコミュニケーションのために、自己紹介の時間を設けてほしい。
- 授業外の実習などにも参加する機会を設け、生徒とより関われる機会があれば良いと思う。
- ボランティアと生徒の交流の場がもう少しほしい。
- 同一のクラスを担当することが大切だと思う。
- 現在週1回なので、もう少し回数を増やしても良いと思った。

【参考】大学からの意見

1 学習サポートボランティアに参加させて良かったこと

- 教育実習前に高校生の学習状況や生活の様子、高校側の指導体制など、高校の指導に触れることができた。
- 指導者側として、高校生に接するという体験ができた。
- 継続的に学校現場に関わる機会を得て、学生たちは実際に生徒たちと関わることで、教えることの難しさ、そのために工夫が必要なこと、伝わった時の達成感など多くの経験を積むことができた。

2 学習サポートボランティアの活動について、改善したら良いと思うこと

- ステップアップ（学び直し）の授業はドリル的な内容なので、学生も生徒への学習支援がしやすく、双方にとって効果的だったが、正規の授業についてはどのようにサポートして良いか分からず、教室の後方で見学しているような授業も見られた。教科によっては学生の出番を積極的に作っている先生もいたが、教科の先生との打ち合わせを密にし、担当の先生から具体的な支援内容を明確に示してもらえると学生も活動しやすく、より効果的な学習サポートができると思う。
- 正規の授業では学生が遠慮がちになってしまうので、授業担当の先生には積極的に学生を活用してもらえると学生も動きやすくなり、より効果的な関わりが可能になると思われる。